

山口県の植物さんぽ④

河原のような
場所が好き！

カワラナデシコ

他の植物に頼っ
て生きている！

ナンバンギセル

ナンバンギセル（南蛮煙管 別名オモイグサ）は、なかなかユニークな形をしていて、名前も面白い植物です。キセル（煙管）というのは、昔の人がたばこを吸うときに使った道具で、先が少し曲がっているのが、この花の形に似ているところから名付けられました。ナンバン（南蛮）というのは、昔の日本から見た外国（ヨーロッパなど）のことです。名前だけでも十分面白いのですが、ナンバンギセルの間は自分で栄養を作らなくて（光合成をしなくて）、スキなどの植物から栄養を奪って育つ寄生植物という点でも興味深い植物です。近所にスキなどの野原があれば根元付近を探してみてください。



スキに寄生するナンバンギセル（右下は花の内側）



ナデシコとは、かれんでなでたくな様子のこと

秋吉台

秋の初め頃編

毎年厳しくなるばかりの夏の暑さも少しは和らいできた頃でしょうか。そろそろお出掛けにも程よい季節になってきました。今回は、秋風が吹き始める頃（9月）から本格的な秋の季節にかけて、秋吉台で花が見られる植物たちを紹介しましょう。（画像の撮影場所はすべて秋吉台）



葉や果実をお茶として用いてきたカワラケツメイ（右下は果実）



秋の草原を彩るピンクのヒメヒゴタイ（右下は頭花と呼ばれる花）

カワラケツメイ

カワラケツメイ（河原決明）は、マメ科の一年草で、これも目のよく当たる河原や道端などに生えます。昔からお茶の代用や薬として広く用いられてきたので、マメチャ（豆茶）、ネムチャ（合歡茶）などいろいろな名前と呼ばれています。河原など育ちやすい環境の減少によって、野生のものは稀少になりました。

草原にりと
立つ姿が美しい！

ヒメヒゴタイ

ヒメヒゴタイは、高さ



遠くからでも目立つオミナエシ（右下は花の様子）

オミナエシ

1メートルを超えるものもある多年草で、全国の日当たりの草原に、ごくまれに見られる青い花のヒゴタイとは別の属です。

数付け、その様子からアワバナ（このアワは泡ではなく粟飯の粟で粟花）とも呼ばれました。似た花で、白い花をつけるオトコエシ（男郎花）も秋吉台で見られます。今回は、秋吉台で秋の初め頃に花が見られる植物を紹介しました。これから秋が深まっていくとさらにいろいろな花が見られるだけでなく、葉も色づき、面白い形の果実や種子も見られ、観察には楽しい季節になります。ぜひあちらこちら「さんぽ」してみませんか？ 杉江喜寿（学芸課主任）▽次回は27日です。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

